



公式サイト

空き地で野菜を育てたい！ エディブルシティの実現へ



田中みち子、砧5丁目ファミリー農園にて子どもたちと

エディブルシティとは直訳すると「食べられる都市」。ドキュメンタリー映画「エディブルシティ」は、経済格差の広がる社会状況を背景に、新鮮で安全な食を求めた一部の市民が、アスファルトやコンクリートを土に変える活動を紹介しています。街全体を食べられる都市に、「エディブル」な活動は世界に変化を促しており、日本でもエディブルウェイとして活動がすすんでいる事例があります。

私たちはロシアのウクライナ侵攻によって、既存の食料システムや社会システムがいかに脆弱かを目の当たりにしています。日本の食料自給率

ドキュメンタリー映画(2014年製作)
「都市を耕すエディブルシティ」▶



は38%、農への関心や地域で野菜を自分で作れる環境を求める声は高まっています。

■公園や区所有の道路用予定地や代替地など使用されていない土地の農的活用を提案してきたところ、今年度から官民連携事業「タマリバタケ」と称し、道路用代替地の農的活用がスタートしました。

■みどり33の達成と気候危機を防ぐためにも重要な取り組みで積極的にすすめることが必要です。地域コミュニティの醸成に貢献する事業が継続的、発展的な活動に繋がるよう庁内が連携し取り組むことが求められます。

暮らしの中での困りごとなど、お気軽にご相談ください。

世田谷・生活者
ネットワーク

生活者ネットワークは市民と議会・行政をつなぐパイプ役として、地方議会に議員を送りだしています。



世田谷区議会議員 金井えり子
世田谷区議会議員 田中みち子
世田谷区議会議員 高岡じゅん子
政策委員 関口江利子
元都議会議員 西崎光子

世田谷・生活者ネットワークは4人で 2023年4月の統一地方選挙に挑戦します！！

金井えり子さんは、こんな人

子どもの笑顔を守りたい、絵本の読み聞かせ活動を長く続けてきた金井さん。着ぐるみアクターや司会のお姉さんをこなしていましたが、猫からパンダまで実は大の動物好き、子ども施策ならお任せです。



- 1964年 東京都杉並区生まれ
- 1982年 目黒星美学園 高等学校卒
- 1984年 日本獣医畜産大学 中退
- 太子堂5丁目在住

関口江利子さんは、こんな人

PTAバレーボールで活躍する体育会系かと思いきや、高齢者から障害のあるお子さん、産前・産後のご家庭まで幅広くサポートするヘルパーさん。生きづらさを抱える人の立場にたってジェンダー平等、性教育に取り組んでいます。



- 1974年 広島県呉市生まれ
- 1993年 安田女子高等学校卒
- 1998年 成安造形大学 情報デザイン学部 映像学科卒
- 上用賀4丁目在住

カンパを
お願いします！



生活者ネットワークの活動は、カンパとボランティアで支えられています。カンパは1口1,000円からいつでもOKです。どうぞよろしくお願いいたします。

3 せたがや生活者ネットワークのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

2 議員報酬は市民の政治活動資金に

3 選挙はカンパとボランティアで

高岡じゅん子さんは、こんな人

まちの生き物環境調査には虫かごと網を持って駆けつける環境活動といえば高岡さん。そんな高岡さんは、震災直後の2011年に区議会議員になってから、災害対策、ごみ環境問題から介護福祉、平和問題へと幅広く頼りになる存在です。



- 1960年 渋谷区生まれ
- 1978年 立教女学院 高等学校卒
- 1982年 筑波大学第2学群 比較文化学類卒
- 羽根木1丁目在住

おのみずきさんは、こんな人

社会人になって仕事に没頭する日々の中、フェミニズム運動に目覚めパリエアカデミーで猛勉強した頑張り屋さん。「こんな社会をどうにかしたい、もっと一人ひとりが生き活きと暮らせるジェンダー平等社会にしたい」と立ち上がりました。



- 1992年 静岡県生まれ 県立荏山高校卒
- 2015年 横浜国立大学 経済学部 国際経済学科卒
- 2017年 横浜国立大学大学院 国際社会科学府 (経済学専攻) 卒
- 北鳥山9丁目在住

【ゆうちょ銀行】世田谷・生活者ネットワーク
記号) 00110-1-765709
店名) 019 普) 0765709

☎03-3420-0737
世田谷・生活者ネットワークHPから
もお問い合わせいただけます。

令和4年第3回定例区議会 および決算特別委員会報告



9月20日から10月21日まで開催。「世田谷区障害理解の促進と地域共生社会の実現をめざす条例」「世田谷区地域行政推進条例」の2つの新条例が可決されました。『せたがやペイ』を使った地域経済活性化や物価高騰対策、非課税世帯や子育て世帯に対する緊急給付金などを含む補正予算など議案33件、議員提出議案4件全てが可決されました。決算委員会も開催され、令和3年度決算5件が認定されました。

命と暮らしを守り、 分断のない 地域社会を

会派を代表し、決算認定に対する意見を発表しました。令和3年度に引き続き区独自の検査体制を維持し、今冬の第8波に備えコロナ対策を万全とすることを求めました。暮らしを守る対策として、すべての子ども達に育つ権利を保障する観点から有機食材の利用なども含めた無償で質の高い学校給食の提供や、介護保険サービスの安定的な確保、フリーランスを含めた不安定雇用の若者世代への支援の強化などを求めました。



区民生活常任委員会
DX推進・公共施設整備等
特別委員会

年齢に応じた 性教育は必要不可欠

日本の性教育の遅れは、子どもたちが性に関する科学的知見に基づいた知識を身につける機会と自分自身の身を守るための手立てを奪うもので、自己決定権が尊重される性教育にはほど遠い現状です。小さな子どもの時からプライベートゾーンに触られるような時に、「NO」と言える権利など、幼児期からの自分を守るための包括的性教育が大切です。

外部講師を活用した性教育やリプロダクティブ・ヘルス／ライツの推進について、保健所と教育所管、人権男女参画課が同じテーブルに着いて議論をすすめる必要性を指摘してきました。ようやく形になり「思春期世代に向けたリプロダクティブ・ヘルス／ライツの周知啓発のあり方について」専門部会ができ、具体的な啓発と取り組みがすすみはじめました。

また、かねてより幼児期からの年齢に応じた包括的性教育の推進も求めてきました。来年3月には幼児と保護者を対象にした「おうち性教育」が実施されます。

今会期中に成立した、2つの条例を今後の区政に活かす提案もしました。障がい者が地域社会の中で安心して暮らせるためのグループホームの建設や、当事者参加のさらなる促進が必要です。各地区に「誰でも食堂」をつくることや、福祉との連携を強め災害時避難が難しい方々と実効性のある対策をすることが、新たな条例の下でのまちづくりセンターの使命です。

ごみゼロを目指して

地球温暖化対策は待ったなしの状況です。ごみゼロを目指すには、まず製造設計の時点からごみを作らない発想が必要です。経済産業部に取り組みを求め、付加価値を高めながら商品を再生するアップサイクル事業の支援など、環境の視点を取り入れた産業育成に、力を入れていくとの答弁を受けました。

♡「すくすくコンパス」講演会（令和5年3月4日（土））
テーマ「おうち性教育」
講師：村瀬 幸浩氏（「人間と性」教育研究協議会代表理事）
時間：10時～12時30分
会場：教育総合センター2階「つき・ほし」
対象：区内在住の乳幼児の保護者
定員：60名
募集期間：2月3日（金）～20日（月）
当選通知：2月21日（火）以降

おうち性教育のお知らせ▶



避難計画を 役立つものに



2019年の多摩川の水害を教訓に、災害から区民を守る対策として、避難行動要支援者の個別避難計画の作成がすすめられています。区と要支援者で、いざという時に安否確認ができるように緊急連絡先や支援者などの情報を共有するものです。しかし、当事者からは「支援者がいない」「情報不足」「避難の実地訓練が必要」などの声を聞きました。個別避難計画というからは、在宅避難にしても避難所に行くにしても、それぞれの事情に



法律が変わり、プラスチックの分別回収と資源としての有効利用が求められています。8月から始まった清掃リサイクル審議会への区民の関心を高め、資源循環型社会の実現に向けた啓発を強化することを求めました。



DX推進と 個人情報保護



日本社会全体が、国主導の急速な行政DXの波に巻き込まれています。転出入時の事務手続

金井えり子



福祉保健常任委員会
地域行政・災害・防犯・
オウム問題対策等特別委員会

合った具体的な行動計画が必要です。個人情報紙面上だけのやり取りだけでなく、地域の支援者とともに実際に役立つ計画にすべきと訴えました。

ペットと高齢者の より良い関係を

ペットは家族の一員、それ以上の存在である場合もあります。とくに高齢になった飼い主の思いは様々です。ペットを飼うことをあきらめる方がいる一方、ペットが生きがいとなっている方もいます。高齢の飼い主への対応は、どうしてもペットと引き離すことになりがちですが、福岡県古賀市の「ペットと暮らすシニアの備えサポート」を参考に、訪問サポートなどの選択肢を増やす工夫を求めました。

高齢であっても飼い主として責任をもって、納得してペットの行く末までを選べるのが大切です。区ですすめている「人と動

きの煩雑さを解消できる「引越しワンストップサービス」が今年度末、全国的に動き出すと言われています。実働半年前になっても全貌が見えてこず、全国規模で起こったみずほ銀行のシステム障害の事例なども頭によぎり、不安がつきません。

区民の個人情報情報を特に大切に扱ってきた世田谷区だからこそ、国に対し、安全の担保と十分な情報開示が無いままの拙速なシステム運用を避けるよう、声をあげるべきと区に対し注意を喚起しました。

来年度以降、区役所の事務作業にインターネット回線が使われるようになることで、区民の個人情報保護の水準が維持できるかも問われました。住民台帳など個人情報情報は従来通り分離した専用回線で管理し、インターネット回線を利用する事務作業においても、職員の意識向上も含め万全の対策を取るとの答弁でした。

ひとにやさしい 街づくり



東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に誰もが暮らしやすい街をめざし、ユニ



バーサルデザインや心のバリアフリーの推進を提案してきましたが、区の取り組みにはまだまだ課題があります。具体的な取り組みとして、商店街などへの点字メニューや筆談ボード、段差解消スロープの設置などを提案し、平成29年度から「共生社会促進助成事業」としてスタートしていたのですが今年度の予算からは外されていました。予算の再開とシェアスロープなど合理的配慮をすすめる店舗情報が必要な人に届くよう周知を求めました。実施に向け検討し、シェアスロープの助成事業での活用や必要な情報が届くよう検討するとの答弁を得ました。「やさしさをシェア」する取り組みが必要です。



文教常任委員会
スポーツ・交流推進等
特別委員会

子どもの権利を 周知し、地域全体で 子どもを守る

今年6月、子どもの権利条約に対応する国内法として「子ども基本法」が成立しました。世田谷区では2001年に「世田谷区子ども条例」を制定し子どもの権利

の尊重を定めています。しかし、大人は子どもの権利を知らず、子ども自身も自分に引き寄せて考えることが出来ていません。条例制定から20年経った今、改めて「子ども条例」子どもの権利の周知が必要、区は全庁を挙げて取り組むべきではないかと問いかけました。区長からは、「子どもが権利の主体として尊厳を守りながら健やかに伸びていける地域社会」づくりを推進していくとの答弁を得ました。

刑法の性犯罪規定改正に向けて 世田谷区議会から意見書提出

10月21日最終日、念願の意見書が全会一致で可決され、国へ提出となりました。生活者ネットワークは提案側に立ち被害女性の思いを伝え、議場で賛成意見を述べました。（田中みち子）

10月9日羽根木公園で開催された第47回「雑居まつり」に、私は初めて参加しました。47年の歴史がある雑居まつりは「ボランティアと福祉を発展させるために」を合言葉に、世田谷で、福祉、教育、食、環境、平和、国際協力など、様々な分野で活動している団体が集まって実行委員会形式で運営しています。私たちは、食と平和、女性・子どもの権利をアピールするために出店しました。偶然にも、高次脳機能障がい者のサポートで知り合った方も出店していて、その方を通じてたくさんの人たちと地域福祉について交流することもできました。メインステージでのアピールでは、性犯罪被害者支援の充実など女性・子どもの権利について、「世田谷区から変えていく！」ことを訴えました。（関口江利子）



Topic
01



Topic
02

雑居まつり

